

第8回教育委員会臨時会議事要録

詳細—教育部庶務課 電話03-3981-1141

附属機関又は 会議体の名称	教育委員会第8回臨時会	
事務局（担当課）	教育部庶務課	
開催日時	令和2年7月27日 午前9時半	
開催場所	807・808会議室	
出席者	委員	金子 智雄（教育長）、樋口 郁代（教育長職務代理者）、白倉 章、 酒井 朗、村瀬 愛
	その他	教育部長、庶務課長、教育施策推進担当課長、学務課長、放課後対策課 長、学校施設課長、指導課長、統括指導主事2名、指導主事、教育セン ター所長
	事務局	庶務課庶務グループ係長、指導課庶務・事業グループ係長、庶務課庶務 グループ主事、指導課庶務・事業グループ主事
公開の可否	一部公開 傍聴人 26人	
非公開・一部公開 の場合は、その理 由		
会議次第	第35号議案 豊島区立学校教科用図書採択について（指導課）	

事務局)

委員の皆様、お揃いです。

金子教育長)

第 8 回教育委員会臨時会を始めます。本日の署名は、村瀬委員と樋口委員にお願いいたします。

本日は傍聴の申し込みが26名いらっしゃいますが、傍聴を認めてよろしいでしょうか。

(委員全員了承)

金子教育長)

それでは、お入りください。

<傍聴者入場>

(1) 第35号議案 豊島区立学校教科用図書採択について

金子教育長)

これより教科用図書の審議に入ります。

事務局より傍聴者の皆様へ注意事項をお伝えください。

はい、庶務課長。

<庶務課長 注意事項説明>

金子教育長)

ただ今より、令和3年度から使用する中学校教科用図書の審議を行います。

それでは、配布資料の確認を、事務局にお願いします。

はい、庶務課長。

<庶務課長 資料説明>

金子教育長)

次に、「令和3年度使用教科用図書」の審議までの経緯について、教育部長より説明してもらいます。

<教育部長 資料説明>

金子教育長)

ありがとうございました。

ここで、審議の方法について申し上げます。

既に、ご承知のとおり、東京都への採択結果報告期限である8月31日までの間は、審議の過程に関する内容について守秘義務が課せられています。そのことから、教科書会社名を伏せて審議を行ってきたことが、以前ございました。

しかしながら、審議内容が分かりづらいといったご意見が寄せられたこともあり、「令和元年度 教科用図書審議会」に引き続き、今回も教科書会社名を明らかにして審議をいたしたいと思っております。審議後、明日の第9回臨時会で、採択会社名を確認いたします。

また、採決の方法につきましては、公平で公正な採択を行うため、無記名投票により行いたいと思っております。

これらについて、ご意見等がありますか。

(委員全員了承)

金子教育長)

それでは、教科書会社名を明らかにして審議し、無記名投票により採択することとします。なお、投票の結果が分かれ、過半数を超えるものがない場合は、投票数の多いものを尊重しつつ、再度、審議のうえ、決定してまいります。

それでは、審議の手順について、事務局から説明をお願いいたします。

はい、指導課長。

<指導課長 資料説明>

金子教育長)

ありがとうございます。

それでは、選定の審議に入りたいと思います。

まず、先程もお話がありましたけれども、これまでに多くの方々に関わっていただきました。新しい教科書、指導要領に沿って、工夫して、構成や作成いただきました各出版社の皆様、本当にありがとうございます。

また、大変短い時間の中でありましたけれども、こうしたことで区内の選定委員の皆様にはやりくりをしていただいて、これから報告ありますような調査をしていただきましたこと、さらに、先程報告がありましたように、展示会場に足を向けてくださいました多くの皆様、保護者の皆様、地域の皆様に、この場を借りましてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

それでは、早速ですが、具体的に道德の選定資料から入ってまいりたいと思います。事務局から、説明をお願いいたします。

はい、指導課長。

<指導課長 資料説明>

金子教育長)

ありがとうございます。説明が終わりました。ここで、各委員、教科書を最後のチェックということで閲覧していただきたいと思います。10分程、お時間を取りたいと思います。確認後に質疑応答の時間を取らせていただきます。

それでは、お願いいたします。

<教科書閲覧>

金子教育長)

そろそろ、宜しいでしょうか。事前に大分読み込んでいただいているため、最終確認のための時間でございました。

それでは、委員の皆さんから、ご意見、ご質問を頂きたいと思います。

はい、白倉委員。

白倉委員)

この道徳という授業は、道徳専門の授業をする先生はいらっしゃらないのでしょうか。

もう一点、道徳教科書については、平成30年の8月に選考して決めたいと思います。この教科書に対して、何か不都合など調査委員会があったかどうか教えてください。

金子教育長)

はい、指導課長。

指導課長)

最初のご質問について、現在、道徳の授業は担当の先生をはじめとして、学校によっては担任だけではなくて学校全体でということで、取り組み始めております。特に、中学校は担当と副担任というような構成になっていますが、副担任の先生も、学級の中に入ってやっている体制になっております。

現在使っている教科書については、「非常に使いやすい。特に内容項目がしっかりと学習指導要領に合っていて、使いやすい。」というような声を学校から頂いているところでございます。

金子教育長)

宜しいですか。

他ございますか。

はい、酒井委員。

酒井委員)

ありがとうございます。

今回、初めて、この教科書の選定ということに携わらせていただきました。

どの教科書もそうですが、学習指導要領が変わったことによって、新しい教科書を選定するということですね。

道徳では、特に前の資料で、生徒が主体的に道徳性を育む工夫ですとか、多様な生き方を生かすための言語活動ですとか、問題解決学習など、多様な方法がとられているか等の観点で、各社のものを見ました。

特に、私は、現行で使われている光村図書は、今申し上げた3つの観点で非常に工夫がされているというふうに思いました。調査資料にもありますけれども、環境問題、国際理解や共生、特に多文化共生については、かなりしっかり触れておまして、そうした現代的な課題をしっかり取り入れられていらっしゃるなというふうに思いました。

それから、最初の導入のところからしっかり工夫されていて、生徒たちが非常に意欲的に取り組みやすいのではないかとこの観点も大切だと思いました。

その他、学研の「教育みらい」は、命の教育ということにウエイトを置かれていて、主体的、対話的な工夫や考えを深める4つの視点ステップ等、非常に工夫されているなと思いました。

以上です。

金子教育長)

ありがとうございます。

いかがでしょうか。

はい、白倉委員。

白倉委員)

光村図書を新しい教科書と比較したときに、2、3項目の配置が変わっていたり、バージョンアップはありますが、内容的には、平成30年8月の教科書の採択時とあまり変わっていないのですね。

先ほど質問したことと関係しますが、この教科書は、経験の浅い先生や道徳の授業の苦手の意識のある先生が安心して、授業が出来るように仕上がっていると思います。

現在の使っている教科書に変更する理由はないと思うため、私は光村図書を推薦したいと思います。

以上です。

金子教育長)

ありがとうございます。

どうぞ、村瀬委員。

村瀬委員)

今回初めての選定ということもありまして、すごく責任の重いことだと思って、一つ一つ時間をかけて見ました。

どの会社もすごく良く出来ていて、意見をまとめるところがあたりと、工夫がたくさんありました。今回は、すごく良い教科書の中から、息子に読ませたいのはどれだろうかという純粋な思いで考えました。

あるところのQRコードを見させていただいたところ、結構、内容に迫るものですか、朗読もプロの方が、良い抑揚でお話しになっているものがありました。これをお互いに読むのもいいですが、プロが読むとこんなふうになるというのを聞くこともできる。自主学習をする際にも、教科書にQRコードがあつて、全ての内容が網羅されていたりすると、これから良いのだろうかというふうに思いました。

金子教育長)

ありがとうございます。

何かありますか。

樋口委員。

樋口委員)

前例のないコロナ禍の中で、大人はもとより、子供たちも生きるって何かなというのをとても考えた時期だったのではないかと思います。それこそ、道徳の授業が自己内対話になったと思うのですけれども、普段は考えないような、自分の中でどうやって生きていったらいいのだろうかとか、中学校はどういう意味があつたのかとか、友達とはなにかなんということも考えたのではないかと思います。私も教科書を読ませていただきました。

冒頭、教育長からもございましたとおり、こうした中でも、たくさんの方に来ていただいたこととか、それぞれの会社さんが懸命に努力をなされたこと、道徳に関しては、先程、白倉委員からもありましたように、僅か2年間でありながらも、改良、改善を加えてくださっているというところに大変嬉しい気持ちでいっぱいでございます。

新しい学習指導要領に変わるに当たって、道徳はもう先行実施をされております。やはり、一番大事なのは、議論する道徳ができることです。道徳の時間こそ、子供たちが考えて、みんなで対話をして、自分の思いとは違う価値観の子と出会って、もう一回、自分の中で落とし込んでということが中学生にとってしやすいもの、また、教員にとっては、そういうことに持っていきやすいものはどれかなというふうに考えて、調べてきました。

一番初めに、道徳の授業は、こんなふうに学ぶのだということが、しっかりされているというのは大事なことだと思います。

もう一つ、大事なのは、私はいつもめあてと発問だと申し上げておるところです。この教材は、一体どの道徳的価値から、友情なのか、思いやりなのか、みんなで考えるのということが分からなければ、方向性がずれてきてしまうので、しっかりと道徳的価値との呼応が出来る、めあてがしっかりと分かりやすいところがいいというふうに思います。

それから、発問については、これは数の問題ではなくて、どういう発問をするかということでもあります。例えば、「二通の手紙」という、どこの会社も取り上げてくださっているものがありますが、これを見てみると、いろいろ考えて、元さんは子供たちを園内に入れてしまったわけですね。入れたことが悪いとか、悪くないとか、そこで先入観を持たせないでほしいなど、私は事業者だったら思っているところです。そうしたときに、やはり、教材でしっかりと考えさせるということが、自分を違う価値観のメジャーの人物と出会わせる大事な要素ですのに、それがいきなり自分にしか発問を持ってきていないというのでは、どの教材だって同じではないかと、私は申し上げました。教材があるからこそ、教材の中で考えることが出来る発問をしっかりと捉まえているところが、ありがたいなと思っています。

また、評価のことにしても、自分が出来た、出来ないではなくて、どんなふうに考えられたのかということの蓄積が自分なりに反すう出来るような評価というか、振り返りであってほしいというふうに思っています。

そうした意味からも今まで使っている光村図書は、大変考えられているというふうに、私は判断しました。

以上です。

金子教育長)

ありがとうございました。

宜しいでしょうか。

ご意見ないようでしたら、道徳について、お手元の色刷りの投票用紙で投票をお願いしたいと思います。

投票を終えられた方は、グレーのファイルに挟んで机の端に置いて、お待ちください。
それではお願いいたします。

<委員投票、確認>

金子教育長)

この時間を活用しまして、私が考えた視点を若干申し上げます。

本区は、SDGsの指定、モデル都市になったためその関連と、それから、深刻ないじめ問題については、重要であると考えておりますが、ほとんどの教材がこれに向けてこられたので、ありがたいと思いました。

それ以外には、話し合い活動の充実ということでの工夫をいただいているものが目につきました。最後に樋口委員もおっしゃいましたけども、特に、道徳の場合は何か知識を入れるということではなくて、自分の気持ちの中で、どういうふうに振り返って、あるいは自分自身、成長を確認出来るような、そういうものが必要だと思います。そういう意味では、幾つかご指摘もありましたように、小学校でも習ったような教材は、改めて、もう一度振り返ってみる。それが、また中学校になったときに、どういうふうに感じられるか。それを自分の心に問うということは、非常に重要なことだなというふうに考えた次第であります。

結果が出ました。

只今、ご確認いただきましたとおり、過半数を超えるものがございましたので、これで、道徳についての審議を終了いたします。

それでは、ここで、換気のために休憩を取りたいと思います。再開を、10分程取ればいいですかね。10時30分まで休憩いたします。

(10時20分 休憩)

(10時30分 再開)

金子教育長)

それでは、再開いたしたいと思います。

国語の選定資料について、事務局よりご説明をお願いいたします。

はい、指導課長。

<指導課長 資料説明>

金子教育長)

ありがとうございます。

ご説明終わりました。それでは、同様に閲覧の最終確認をしたいと思います。10分程お取りしますので、宜しくお願いいたします。

<教科書閲覧>

金子教育長)

それでは、これで委員の皆さんからご意見、ご質問を頂きたいと思います。宜しくお願いします。

白倉委員、どうぞ。宜しいですか。

白倉委員)

東京都や全国の学力調査の結果を見ますと、本区の小学校の成績はそれなりに成績が良いのに、中学校になるとぐんと落ちてしまうのは、どういうことが原因でしょうか。もし、成績が悪い理由が分かれば、それに対する教科書を選ばないといけないなと思った次第です。

金子教育長)

ご所見ございますか。

指導課長。

指導課長)

どちらかという、指導法に課題があつて、教材に課題にあるわけではないので、教材に頼っているところがあるというのを、実感しているところです。この教材でなければならぬというものでもなくて、指導法に課題があると考えていますので、教科書の何を取り上げられたかということについては大きく影響するものではないと、学力調査の中では分析をいたしました。

金子教育長)

他にございますか。

はい、樋口委員。

樋口委員)

先程も申し上げたとおり、全教科共通の話ですが、この教材の、この単元で一体何を学ぶのか、表現としては目標、ねらい、学習問題、学習課題など、いろいろあると思いますが、そういうことが、まず、すっと落ちてこない、最後の振り返りが呼応しないと考えています。

学習の目標に対して、振り返りが呼応して、初めて、今日はこういうこと学んだのだな、文章の心情はこのように捉えればいいのだな、こういうところが理解出来なかったなど、自分の達成の状況を知ることが、生徒たちの満足感や自信に繋がっていくというふうに思うので、そこを大事にしていきたいです。

私が、今回、大事にしたのは、次のようなことです。全国、都、区、全ての調査において指摘されている事項ですが、根拠を持って比べて自分なりの意見を言うということが非常に苦手であるということで、豊島区のお子さんについても、そこはしっかりとしていかななくてはならないと思っています。

何故、今この話をしたかという、調査結果のことと、もう一つ、新しい学習指導要領において、国語科では、情報の扱いというのが新たに入ったからです。この情報の扱いというのは、先程、指導課長が情報活用能力のところでも触れてくださいましたけど、国語でいうところは活用能力だけではなくて、情報を見て、自分の意見を持つということが大切なのです。自分の意見を持つためには、正しいものはどれかを見極めて、情報をしっか

りと分析をする手だてがわかる必要があるため、そういうところがきちんと子供の目線で見たときに分かるようなものでないといけないなと思いました。

そうした意味から、情報のところでは根拠を持って書くというのを、私はキーワードにしています。この根拠を持って書くというのは、しなくてはいけないことでどの單元でもあることではありますが、注目していたのは、それが継続的かというところでした。会社によっては、発達段階との関わりなのだと思いますが、3年後にいきなり批評文などかなり落差があるものがあると思います。

その辺のところから言うと、東京書籍とか、光村図書は非常に段階を追っているなということが分かりました。

それから、もう一つ大事にしたのは語彙力です。今の子供の語彙は、非常に少ないですよ。小学生だけではなくて、大学生、大人もです。何でも「めっちゃ」とよく言うし、「やばい」と、やばいって、何なのだろうとかと、それを、他の言葉に言い換えてみようといったときに出てこない。そこに力点が置かれているところというのを選びました。

最後に、付け加え忘れましたが、根拠を大事にした理由について、例えば、理科の勉強をするときも、根拠をしっかりと捉えてないと、理科の実験も、観察も出来ない。ここが本区の子供たちは弱いのだと思っています。

それから、読書についても、もっと伸びしろがある状態でありまして、読書の紹介の仕方が、これ読んでみたいなと思わせるようなものになっているかということも大事にして、私は選んでみたいと思いました。

以上です。

金子教育長)

ありがとうございました。宜しいでしょうか。

どうぞ、酒井委員。

酒井委員)

今のご意見に、私の考え方も近いと思いました。やはり、今回、学習指導要領の改訂の趣旨にも書いてありますけれども、複数の資料から適切な情報を得て、それらを比較、関連づけたりすること、伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして、書いたり、話したりすることというのが、非常に重視されています。

そのなかで、例えば、説明文の説明の中で、文書の構成を捉えるという視点がどのように書かれているのかですとか、それから情報活用のところは、レポートの書き方の中で、自分の意見や根拠を持って、きちんと表現するということについて、どれぐらい詳しく書かれているのかですとか、そうしたことを重視しているかという観点で、いろいろ教科書を比べてみました。

金子教育長)

ありがとうございます。

はい、村瀬委員。

村瀬委員)

皆さんのお話をもっともだなと思いながら聞いていました。

国語では、子供たちに分かりにくい古典芸能とかを視覚的に分かりやすくしてあったり、子供たちがみんなの前で何か発表するという力が少ないと思うことがありましたので、そこを工夫されているところを感心して見ていました。思考力、判断力、表現力、知識、技能について、1年生、2年生、3年生と段階的に身につけるように、よく出来ているなど思っていました。

特に、東京書籍は、相手の立場を考えたり、質問をしたり、反論したりするにはどうしたらいいのかというのを、漫画で分かりやすく扱っていたりですとか、平家物語のページだけクオリティの高い紙を使っていたり、人間関係の図が分かりやすく載っているなど、一目で見て、分かるようなものが各会社でありました。

確かに、今の子供たちの語彙力が落ちているなど、親としても思います。何よりも、子供たちが受け身ではなくて、主体的に勉強していけるような内容の教科書がいいなと思います。

あと、豊島区が全国で10しか選ばれないSDGsモデル都市になり、これからだということなので、そういうことにもしっかり触れている教科書だとより分かりやすいと思い、どの教科書もそこに触れていたのが良かったと思います。

金子教育長)

ありがとうございます。

宜しいでしょうか。これ以上ないようでしたら、国語について、お手元の色刷りの投票用紙で投票をお願いいたします。投票を終えられた方は、グレーのファイルに挟んで、机の端に置いてください。お願いいたします。

<委員投票、確認>

金子教育長)

この時間をお借りしまして、私がこういうことを思っていたことを、付け加えさせていただきます。

2022年から、高校の現代文が変わり、論理国語と文学国語という、僕らのときになかったような、そういったものに分かれると聞いています。

その前段で、中学校の国語ですが、私も何十年ぶりに見たのですが、他の教科と比べて完成度が高いかなと思いました。基本的にはここで、日本人としての国語の能力というのは完成されるのだなというふうに強い実感を持った次第であります。

その中で、ポイントとしては、読書の案内になることが大事かなと考えました。一方で、入試の関係もあるので、読書離れに何故なるかというようなこともちょっと言われていますけども、そういう案内にしっかりなるということも大事かなと思って、重視して、選びました。

投票結果のご確認をお願いします。

それでは、只今ご確認いただきましたとおり、過半数超えるものがございましたので、これで、国語についての審議を終了したいと思います。

続きまして、書写の選定資料につきまして、事務局よりご説明をお願いします。

はい、指導課長。

<指導課長 資料説明>

<教科書閲覧>

金子教育長)

それでは、ご意見、ご感想をお願いしたいと思います。

村瀬委員。

村瀬委員)

書写の教科書は、書き方が丁寧に書いてありました。特に、手紙の書き方がきちんと書かれていたり、自分で書いてみようだったり、ここで一文字開けるなど書いてある教科書がありました。

また、習字については、各社、力の入れ具合を1から3で示していたのですが、一社だけは、トンとかスーッとかが、息遣いというのでしょうか、面白い表現をしているなと思いました。こういった方が、子供にはわかりやすいのかもしれないと思った次第です。

金子教育長)

ありがとうございました。

他にご意見ございますか。

はい、白倉委員、お願いいたします。

白倉委員)

各社お手本を大変多く示してあり、文字を正しく整えて書くこと、書写の能力を学習や生活の場で役立てることを鑑みて考えました。各社、甲乙つけ難いのですが、国語の教科書との連携を活かし、教えた教科書に仕上げていることから、私は光村図書がベターじゃないかと考えます。

金子教育長)

ありがとうございました。

他にご意見ありますか。

はい、酒井委員。

酒井委員)

書写と学習要領の流れの中で、生徒が自ら考え主体的に学ぶというのが非常に大事なのだと考えました。書写とういと、昔はお手本を見てまねるという考えがあったと思うのですが、今は自分で分析して考えていくということが非常に大事になっていくのだと思います。その部分について、どのくらいウエイトをかけているのかということが大事だと思い、その観点からみさせてもらいました。

それから、お手本の文字そのものが、のびやかできれいかというのを問題にさせていた

できました。

金子教育長)

ありがとうございます。

はい、樋口委員。

樋口委員)

生徒の机は、そんなに大きいものではないのですね。毛筆をやる場合、道具があつて、自分の半紙があつて、お手本があるとなつた時に、幅広いのは載せきれません。お手本を折ればいいのではないかといわれるかもしれませんが、私が子供であつたら、朱書きの部分も同時に目に飛び込んできてほしいと思うのです。狭めのものもあつたかもしれませんが、それでも使い勝手はどうなのかなと思います。

なぜこういうことを申すかという、道具を使うものというのは、安全安心が一番でありまして、道具をひっくり返すって、よくあるのですが、やはりそういうリスクはなるべく避けてあげたいなというふうに思います。些末的なことのように聞こえますが、実は、落ち着いた気持ちで筆を持つというのが、大事なことなので、そんなことを私は大事にしたいです。

それから、酒井委員のご指摘のとおりで、やはり新しい学習指導は子供たちに書写でも考えさせるというのはどういうことなのかを大事にしなければいけないと思います。子供自身の気づきを持ってから、それが良かったのかどうかを確かめてみるというふうなつくりは、大変共感が出来るというふうに思ったところです。そして、それを日常生活の中では、こういう見方も出来るのだというつくりについては、4社とも、それぞれに工夫があつて、大変勉強になったところであります。

あと、半紙大のお手本があるところとないところがあるのですが、私は必要だと思います。中学生だから要らないという論理ではなくて、字はバランスなのでそういうところを大事にしている教科書だと良いなというふうに思いました。

以上です。

金子教育長)

非常に実践的なお話ありがとうございました。

宜しいですかね。

では、意見が出そろいましたので、ここで、投票に移りたいと思います。

手元の色刷りの投票用紙で投票をお願いいたします。終わりましたら、グレーのファイルに挟んで、端っこに置いてください。

皆さん、ご指摘いただいたとおりだと思います。特に付け加えることはないのですが、私は、実生活でどういう使われ方をしているかの部分で、手紙であるとか、様々な形で大人になってから、こういうところで字が書けないとまずいぞということが分かるような仕掛けがあつたのが印象的でありました。大事なことだと思っております。

<委員投票、確認>

金子教育長)

只今、確認いただきましたとおり、過半数を超えるものがございましたので、これにて、書写についての審議を終了したいと思います。

それでは、教科書を入れ替えてください。

それでは、技術・家庭のうちの技術の分野の選定資料について、事務局よりご説明をお願いします。

はい、指導課長。

<指導課長 資料説明>

金子教育長)

ありがとうございました。

それでは、3点ですので、5分程度で、また、ご覧いただきたいと思います。その後に質疑をしたいと思います。お願いします。

<教科書閲覧>

金子教育長)

そろそろ宜しいでしょうか。それでは、ご質問、ご意見いただきたいと思います。

はい、村瀬委員。

村瀬委員)

技術の中では、生活に密着しているところから、そうでもないところまで、幅広いことを扱わないといけないということで、工夫が必要な教科だと、教科書を見ていて思いました。

一つずつ見ていくと、分野は似ていますが取上げ方が少しずつ違うなというのがありました。中には冷蔵庫開けっ放しにしたときに鳴るような機械を作ってみようなどもあり、やってみたいと思わせるような工夫でしたり、何か身近なことにちょっと近づけるような工夫がされていたりしていました。

金子教育長)

ありがとうございます。

他にございますか。

はい、白倉委員。

白倉委員)

各社、本当に良く出来ていて甲乙付け難いですが、総合的に見て、見やすさとまとめ、教えやすさで情報化社会にどう対応するかということを考えたときに、東京書籍が優れているのではないかと見させてもらいました。

金子教育長)

ありがとうございます。

はい、酒井委員。

酒井委員)

3社とも非常にカラフルで、随分、教科書も変わったなとしみじみ思った教科書の一つでした。

恐らく、技術というのは、様々な役割があって、一つは生活にいかに豊かに役立てるのかということと、それから、それらを使って未来を作っていくということであり、これらがどの方向を向いているのかが、教科書によってスタンスが違うというところがある教科だなと思いました。

Society 5.0やSDGsにかなり触れていらっしゃるのと、それほど触れてらっしゃらないところですか、それから、細やかな部分、例えば政策の説明でかなり詳しく書いているところと、さらっと書いてあるところと、詳しくも、結構、段階があるということがわかりました。なので、どの辺をポイントに置いて、選ぶのかというのが大事になってくると思います。

その際に、やはり、今回の指導要領の改訂で、ここに書いてある生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして、課題を設定して、それを解決する力ですとか、持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し、想像しようとする態度が、これからの技術ということの一つポイントかなと思ひまして、そういう観点で、考えさせていただきました。

以上です。

金子教育長)

ありがとうございます。

はい、樋口委員。

樋口委員)

いろいろなことが持ち込まれていて、読んでいて勉強になることばかりなのですが、私、視力が弱いというのがあって、目がちかちかし過ぎない方がいいなと思いました。文字があまりにも小さくて盛り込み過ぎると、せつかく伝えたいところが伝わってこないのではないかと思います。教科書を選ぶとき、レイアウト、表現や標記というのはすごく大切だと思っています。あまりにもキャラクターがしゃべり過ぎているのもどうなのかなど、いろいろ考えながら、学ばせていただいております。

私も、新しい学習指導要領との絡みの中で、技術も次に登場いたします家庭科においても、日常生活そのものが一番身近であって、考えていくべきもので、気づきがなければならぬし、また、そういうことを気づかせてくださる教科なのだろうと考えます。その割に、授業の時間は少ないので、先生方はすごく苦勞をなさるのではないかなというふうに思います。

端的に申し上げれば、課題解決的な学習を学べるような状況があることが一点目です。

二点目は、プログラミング教育というところで、技術科はそのウエイトが大きいところですので、プログラミングに対して、どんなふうに扱っていらっしゃるのかというところ

それから、私が大事にしているのは、安全性のことです。器具を扱うものですので、そこは重要だと思います。例えばパソコンだって、安全性は関係ないという子供がいますが、全くそうでなくて、ひとつ押せば、世界と繋がってしまうような、そういう意味での安全性もあるわけです。そういうところが子供にとって、しっかりと主体的に学べて、先生方もしっかりとそれが出来るところがいいなというふうに思いまして、私も東京書籍は、そういう意味では、宜しいかなというふうに思いました。

以上です。

金子教育長)

ありがとうございました。

宜しいですかね。ないようですので、技術につきまして、お手元の色刷りの投票用紙で同じように投票をお願いいたします。終わりましたら、グレーのファイルに挟んで、机の端にお置きください。

それで、さっき、先生ご指摘いただいたように、未来志向か、実生活かというところですが、今社会の動きが速くて、どんどん未来が実生活になっているという状況もあるなどお聞きしながら思った次第です。本当に我々の頃と比べると。さま変わり、ほとんど技術というよりは、情報みたいなジャンルに突入している感じがあります。

特に、私としては、本区の状況を鑑みると、もうこの秋から一人1台体制で、タブレットを貸与するということが叶いますので、その辺りも、念頭に置きながら選んでみました。

あとは、皆さんがおっしゃっていたとおりかと思えます。

<委員投票、確認>

金子教育長)

只今、ご確認いただきましたとおり、過半数を超えるものがございましたので、これで技術の審議を終了したいと思います。

それでは、教科書を入れ替えてください。

このコロナ禍で、大学の授業もほとんどオンラインでやられているなかで、大学生が、普段はスマホに慣れていて、キーボードの打ち方が分からない、初めてキーボードを触るということがあったそうです。また我々の時代と違うところがいろいろあるから、大変だなというふうに思えます。

それでは、家庭分野の選定資料について、ご説明をお願いいたします。

はい、指導課長。

<指導課長 資料説明>

金子教育長)

説明終わりました。それでは、3点ですので、5分程度で閲覧をお願いいたします。

<教科書閲覧>

金子教育長)

宜しいでしょうか。それでは、ここで、皆さんからご意見、ご質問を頂きたいと思いま

す。いかがでしょうか。

はい、村瀬委員。

村瀬委員)

家庭科についても、たくさんの項目に分かれていて、カラフルで分かりやすい教科書だなと思いました。特に、6つの基礎食品、食品群の摂取量の目安について、食品の写真も全部がある状態で分かりやすいなと思って、感動しました。

また、年中行事の暮らしとして、日本ならではの食べ物や行事を表にしてあったりと、自分の生活に密着した家庭科の教科書だなと思いました。

金子教育長)

ありがとうございます。

他にございますか。

はい、白倉委員。

白倉委員)

3社とも各分野で大変工夫されていて、大変良く出来ていると思います。

安全、衛生への配慮がなされている点、家庭科における言語活動が充実されて、活動の目標の明確さの点、そして、また各単元の最後に課題が設定されていて、主体的に学ぶ流れが出来ている点で開隆堂がベターだと思います。

金子教育長)

ありがとうございます。

はい、酒井委員。

酒井委員)

ありがとうございます。

3社とも、カラフルで内容も充実していて、甲乙付けがたいのですけれども、比べてみますと、やはり、先程と同じように、それぞれ社の方針というのがそれぞれ少しずつ違うということが分かりました。

特に、今目に飛び込んできた例で申し上げますと、自立と共生という言葉について、生活自立に重点を置くか、共生に重点を置くかでトーンが違っているというのが見て取れるかなと思います。

豊島区の状況を考えたときに、今大都市の真ん中で多様な家族がいて、実際にこの中には親の離婚ですとか、様々な家族の問題を抱えながら、中学生もそこで家庭生活を営んでいるということについて、考えさせる部分も大事ではないかと思います。

それから区として、進めているSDGsの考え方とこの部分は非常に関連する分野だと思ひまして、そこの部分での関連性、どのぐらい目配りして、内容が編成されているかというところも重視して、考えてみました。

以上です。

金子教育長)

ありがとうございます。

他にございますか。

はい、樋口委員。

樋口委員)

先程の技術科のときと同じ観点で見えていますが、とりわけ、家庭科は生きるそのものであり、人間として、尊厳を持って生きていけるベースを作っていく教科の一つであろうというふうに思っています。

ですから、課題解決的な学習はしていく必要があります、それは3社とも非常に手厚くやったださっています。また、同じように安全面への配慮というのは、大変重要なところで、そこから辺りの扱いですとか、それから、豊島区はふるさと学習もしている区でございますので、地域との繋がりですとか、幼児、乳幼児あたりと自分が育ってきたようなあたりとの扱いが振り返れるような、そんなところを視点にさせていただきました。

以上です。

金子教育長)

ありがとうございます。

宜しいでしょうか。

それでは、家庭について、お手元の色刷り投票用紙で投票をお願いいたします。

家庭科につきましては、特に私から付け加えることもありません。SDGsについても、触れ方は若干違うというのはありましたけれども、どれも触れられておりました。

生活の中から課題を見つけるということが、それぞれ工夫されており、防災など中学生には考えてもらいたい課題についても、よく触れられていて、手帳まで付いているものもありました。

<委員投票、確認>

金子教育長)

只今、ご確認いただきましたとおり、過半数を超えるものがありましたので、これで家庭科についての審議を終了いたします。

以上で本日の審議は終了いたします。事務局から連絡等ございますか。

はい、庶務課長。

庶務課長)

本日配付いたしました資料につきましては、事務局で保管いたしますので、恐れ入りますが、机の上に置いたままをお願いいたします。宜しくお願いいたします。

以上でございます。

金子教育長)

以上で本日の審議を全て終了いたします。

次回は、明日7月28日、火曜日、9時半から、ここ、同じく807・808の会議室で開催いたします。

皆様、長時間にわたり、お疲れさまでございました。ありがとうございました。

(午前11時50分 閉会)